

〔著書論文目録〕(自昭和廿五年一月至同三月)

國史關係〔著書〕

- 日本史概説 坂本太郎著(A5・三九一頁)
- ・至文堂・二八〇圓)
- 日本考古學入門 原田淑人編(A5・二六七頁・吉川弘文館・二五〇圓)
- 柳田國男先生著作集 老讀書屋(B6・三三〇頁・實業の日本社・二七〇圓)
- 世界の視圖 日本歴史 橋本克彦著(B6・二二七頁・小峰書店・二〇〇圓)
- 日本文學史要説 武田祐吉著(A5・二〇七頁・富士出版株式會社・一五〇圓)
- 日本歴史の諸相 家永三郎著(B6・一五五頁・一八〇圓)
- 日本史教育の理論と實際 和歌森太郎著(B6・三〇九頁・小石川書房・一九〇圓)
- 日本古典の研究(下) 津田左右吉(A5・七九八頁・岩波書店・七五〇圓)
- 淨土教美術 石田一良著(A5・九三頁・蘭書房・一〇〇圓)
- 日本佛教史中世篇之三 辻善之助著(A5

- ・四九二頁・岩波書店・五五〇圓)
- 片桐石州と茶道藝術 桑田忠親著(B6・二〇六頁・創元社・二〇〇圓)
- 近世教育史 乙竹岩造著(B6・三六三頁・培風館・一九〇圓)
- 定本一茶全集 第三卷(B6・三三八頁・羽田書房・四五〇圓)
- 日本近代繪業の成立 攝西光速著(B6・二四〇頁・角川書店・一八〇圓)
- 忘れられた思想家 F.H.ノーマン著(岩波新書・上二二七頁・下二二六頁・上下各九〇圓)
- 幸徳秋水選集 第三卷 平民主義 平野織太郎編(B6・三六七頁・世界評論社・二八〇圓)
- 國體論 北一輝著(A5・二一六頁・北一輝遺著刊行會・二五〇圓)
- 日本共產主義運動史 山本勝之助・有田滿穂共著(B6・四七三頁・世紀書房・二八〇圓)
- 戦後日本のインフレーション 都留重人著(岩波新書・一五五頁・九〇圓)
- ルンペン社會の研究 富田秀雄著(B6・

- 三二四頁・改造社・二五〇圓)
 - 日本と天皇と神道 D.C.ホルトル著(岩波新書・三〇〇頁・改造社・二〇〇圓)
 - 藝術精神史研究 中村二柄著(B6・二五八頁・白井書房・二五〇圓)
 - 原始時代の生活 自然史學會編(B6・三三〇頁・辨勞園・二三〇圓)
 - 平安朝文學史(下) 五十嵐力著(A5・五一六頁・東京堂・五五〇圓)
 - 藝術としての俳諧 阿崎義惠著(A5・三〇四頁・要書房・三八〇圓)
 - 共產黨をめぐる人々 荒畑寒村著(アテネ文庫・六〇頁・弘文堂・三〇圓)
 - レイテ沖海戦 小柳富次著(アテネ文庫・六二頁・弘文堂・三〇圓)
- 〔雜誌論文〕
- 郷土研究 創刊號(昭廿五・一・佐賀縣郷土研究會)
 - 郷土社會の研究 高田 保馬
 - 世界史と歴史觀 小林榮三郎
 - 農耕儀禮と文化 市場直次郎
 - 神と佛 飯田 一郎

郷土の歴史的研究の重要性とその方法に就いて 七田 忠志

白鬘神社の丸祭と村落生活 野口 隆

史林 三三ノ一(昭和廿五・一)

近代精神の系譜―朱子學の世界觀と其の歴史的位置― 石田 一良

史迹と美術 二〇〇(昭廿五・一)

東大寺三月堂本尊寶冠垂下の勾玉に就いて 梅原 末治

備後國金丸の寶篋印塔 村上 正名

大正十五年の法隆寺寶器調査記 岸 熊吉

舍利容器について 毛利 久

泉涌寺の舍利殿 雲林 應主

日本庭園の石組 重藤 三玲

當麻の古美術 齊藤 孝經

經濟學論叢一ノ三(昭廿五・二)

土地經濟的發展類型 松好 貞夫

經濟と貿易(時報改題四六・四七合併) 昭廿五・二)

日本に於ける初期のアメリカ知識 鮎澤信太郎

自治研究 二六ノ二(昭廿五・二)

生活としての地方自治―わが國地方制度の性格について― 岸 昌

文學 一八ノ一(昭廿五・一)

封建主義文學理論の克服―日本の近代の性格について― 丸山 靜

同 一八ノ二(昭廿五・二)

日本の抒情詩の展開 土居 光知

日本に於ける民謡の問題―覚え書風に― 高木市之助

抒情の變革の系譜について―近代詩歌の展望覚え書― 一條 誠

近代イデオロギ―史の課題と近代短歌史 信夫清三郎

ひとつの中世的人間像 西尾 實

歴史學研究 一四三(昭廿五・一)

征韓論・自由民権論・封建論(一) 遼山 茂樹

明治初年まで残存した賦役券物について 平澤 清人

學問の自由について 石母田 正

同 一四四(昭廿五・三)

江戸時代に於ける畿内農業と寄生地主―山城國乙訓郡久我村に於ける小作料の性

格― 古島 敏雄

漁業經濟史研究の動向 服部 一馬

朝日評論二月號(昭廿五・二)

社會主義者の七十年(2)―アメリカ船防禦― 山川 均

同 三月號(昭廿五・三)

社會主義者の七十年(3)―アメリカ船防禦― 山川 均

歴史評論四ノ一(昭廿五・一) 特集古代史 藤谷 俊雄

日本神話と考古學 木村 莊吉

仁徳陵の秘密 内藤 晃

日本古代史研究のあゆみ 石母田 正

歴史的精神について 高田 要

藤五郎稻荷の由来 さつまいもの歴史 栗原 東洋

同 四ノ二(昭廿五・二) 特集中世史 信長政權確立に於ける一向一揆 笠原 一男

中國の地主と日本の地主 北村 敬直

大學自治の成立 島田雄次郎

日本中世史研究のあゆみ 杉山 博

同 四ノ三(昭廿五・三) 特集近代史 歴史の話題 藤間・三島・谷・西岡

明治維新はどうして準備されたか

原口 清

維新史に於けるマニユファクチュアの問
題
それがファシズムをたすけるか(1)

羽鳥 卓也

三又・竹越與三郎を想ふ

まつしま・えいいち

ひだの大原騒動

江馬 務

農業生産技術の發達をどうして調べるか
(2)

赤松 啓介

民間傳承 一四ノ二(昭廿五・二)

堀 一郎

初春のほかも人

竹田 麟洲

株の祭

岡野 教生

若衆組と婚姻

丸山 久子

陸中の隠し念佛

安間 清

日本評論 一月號(昭廿五・一)

世界恐慌と日本の運命 平野義太郎

政黨の獨裁から大衆政治へ 今中 次磨

二つの下層社會 大河内一男

太平洋戦下の日本經濟―かくて日本崩壊
せり―米戰略爆撃調査團報告
正木千冬譯

思想 三〇七(昭廿五・一)
禪の孤高性について(上) 市川 白弦

同 三〇八(昭廿五・二)
封建制度概念の多様性 上原 專祿

幕末變革期に於ける學問と政治
奈良本辰也

同 三〇九(昭廿五・三)
禪の孤高性について(下) 市川 白弦

潮流 一月號(昭廿五・一)
日本紀元は一三二〇年新し
田村榮太郎

同 三月號(昭廿五・三)
王の族 青野 季吉

展望 一月號(昭廿五・一)
西歐文化の危機と日本―日本の知識人へ
ブルンナー

信長と高山右近 和辻 哲郎

進歩・保守・反動(座談會) 柳田・中島

・天野・竹内・桑原・遠藤參加

世界 四九(昭廿五・一)
二十世紀のなかに立つて 羽仁 五郎

クリオの瀕 H・ノーマン
原田文書抄 ファシズムの狼火
原田 熊雄

同 五〇(昭廿五・二)
日本の運命(一) 座談會、長谷川・中

島・荒畑・安倍・大内・長與・鶴見・丸
山參加

同 五一(昭廿五・三)
興敗の岐路 座談會 大内 ほか

同 五二(昭廿五・四)
日本のデイレンマ シェリ・マイダンス
アジア經濟と日本經濟 大來佐武郎

國語と國文學 三一六(昭廿五・二)
筑前國志賀白水郎十首の眞意 笠井 清

假字萬葉と見た赤人集及び柿本集一部―
私家集の成立に關する考察 後藤 利雄

近松と海音との交渉―世話物を通して見
た― 高野 正巳

理想 二〇二(昭廿五・三)

佛敎の人間像 鈴木 宗忠

染織美術 二(昭廿五・二)

近世染織美術 明石 染入

京都の染織を語る座談會

中央公論 七三四(昭廿五・四)

日本に於ける社會民主主義の運命

社會思想研究會

新潮 四七ノ三(昭廿五・三)

日本歴史解禁 瀧川政次郎

經濟評論 二月號(昭廿五・二)

日本資本主義の原理 堀江 英一

史淵 四二

讃岐守時代の道眞 西尾陽太郎

史學雜誌 五九ノ一(昭廿五・一)

荷受間屋資本の生産地投下の諸形態―京

都和糸絹問屋の場合― 森岡 美子

資料紹介：古代戸籍の整理 青木 和夫

同 五九ノ二(昭廿五・二)

中世初期に於ける所領給與の一形態―西

國の惣地頭について― 安田 元久

資料紹介：古代戸籍の整理 青木 和夫

社會構成史大系 第六回

古代末期の政治過程および政治形態(上)

石母 田正

東洋文化 創刊號(昭廿五・二)

人身賣買 川島武宣 討論參加、飯塚・

仁井田・磯田・丸山・村川

民族學研究 一四ノ三(昭廿五・二)

民俗學から民族學へ―日本民俗學の足跡

を顧みて―対談 柳田國男・折口信夫

伊豆利島の「足入れ婚」 大間知篤三

東洋史關係 [著書]

清代文學評論史 青木正兒著(A5判三三

六頁 岩波書店 五〇〇)

中國資本主義と戦後經濟 渡邊長雄著(B

6判二八三頁 東洋經濟新報社二〇〇)

新中國の經濟建設 岩村三千夫・尾崎庄太

郎著(B6判二二六頁 東洋經濟新報社

一六〇)

中國古代政治思想 中江丑吉著(A5判六

七三頁 岩波書店 七五〇)

東洋の政治經濟 廣島文理科大學東洋史研

究室編(5判三五八頁 目黒書店 四〇

〇)

杜甫私記第一卷 吉川幸次郎著(A5判三

〇六頁 筑摩書房 三八〇)

中國の短篇小説 杉本行夫著(B6判一九

一頁 出來島書店 一八〇

マハトマ・ガンジー(岩波新書) 巖山芳郎

著(二一五頁 九〇)

雍正帝(岩波新書) 宮崎市定著(一六五頁

九〇)

中國革命史論 橋樑著(A5判四二七頁

日本評論社 五五〇)

中國の革命思想 小島祐馬著(B6判一六

六頁 弘文堂 一三〇)

【論文】

オリエンタリカ2(廿四・十一)

インドにおける佛敎の宗教化のみちすち

老子の無 津田左右吉

道教信仰と神判 板野 長八

支那初期繅業の成立とその構造 仁井田 陞

廣東の合族祠と合族譜 西嶋 定生

遼金時代の貴德州の位置について 牧野 巖

池内 宏

常徳西使記及び瀛涯勝覽に見えたるメツカの一習俗について 田坂 興道

明代商税の本色及び折色に就て 佐久間重男

史淵 第四十二輯(廿四・十二)

粟末鞆鞆の對外關係(その二) 日野開三郎

清初史に於ける二三の問題に就て 江島 壽雄

史學雜誌 第五十九編一・二號(廿五・一)

インドにおける都市國家と政治思想 中村 元

思想 第三百七號(廿五・一)

ヘーゲルが見た東洋の世界 戸頃 重基

社會科學評論 第五集(廿五・二)

中國の古代家族は經濟的自給自足體に非ず 牧野 巽

史林 第三十三卷一號(廿五・一)

清代の械闘 北村 敬直

アメリカにおける東洋史學研究の一動向 田村 實造

人文研究 第一卷二號(廿四・十二)

元「大都」の平面配置 山根徳太郎

哲學雜誌 第七百三號(廿五・一)

支那哲學方法論研究 宇野 精一

印度哲學研究の目的と方法 金倉 圓照

東洋文化 第一號(廿五・二)

東亞における生活様式の諸類型 飯塚 浩二

北京工商ギルドの職業倫理 仁井田 陞

史書なき印度の歴史 辻 直四郎

匈奴フン同族論の批判 榎 一雄

民族學研究 第十四卷三號(廿五・二)

西部ニューギニア原住民の社會組織―特に部族の構造について― 泉 靖一

ミクロネシアにおける「同生地族」の形成 奥野彦六郎

雲南の民家の祖系傳説 牧野 巽

今世紀におけるフン問題研究の回顧と明日への課題 内田 吟風

歴史學研究・第四百十三號(廿五・一)

宋代の佃戶制 周藤 吉之

歴史評論 第二號(廿五・二)

中國の地主と日本の地主 北村 敬直

西洋史關係〔著書〕

帝國主義と第一次大戰(京大西洋史7) 中山治一 A5 一五一頁・創元社 一一〇圓

新考世界史(上) 原隨園執筆責任 A5 一

九六頁 教育タイムス社 一四〇圓

現代世界史 大類伸 B6 二八五頁 勞

劬文化社 二四〇圓

世界の歴史 第六卷(現代) 服部・江口

・村濑 B6 三七〇頁 毎日新聞社 二

二〇圓

歴史の方法 羽仁五郎 B6 二五八頁 岩

崎書店 二五〇圓

廿世紀五十年史(年表) 時事通信社 A

5八〇頁 時事通信社

世界歴史地圖 龜井・三上・兒玉 A5

吉川弘文館 三五〇圓

西洋と東洋 岩村忍 B6 二〇七頁 三省

堂 一八〇圓

社會科學入門 大塚・矢田他 A6 三五二

頁・みすず社 二二〇圓

社會學成立史 清水義太郎 B6 三三八頁

河出書房 二三〇圓

ドイツ共產黨史 猪木正道 B 6 一六四頁

弘文堂 一四〇圓

ロシア革命史 大竹博吉 B 6 三〇〇頁

ナウカ社 二〇〇圓

コミンテルンの歴史 山邊健太郎 B 6 三

六六頁 新興出版社 二五〇圓

ルネサンスと宗教改革 井上幸治 B 6 二

四二頁 三省堂 一八〇圓

文化のあけぼの 駒井和愛 B 6 一四五頁

三省堂 一五〇圓

米國政治史の研究 高木八尺 A 5 三三二

頁 岩波書店 五〇〇圓

近世における繁榮中心の移動 今井登志吾

A 5 三三七頁 誠文堂新光社 三五〇圓

プロイセン農業改革とエンカー經營の發展

(社會構成史體系6) 林健太郎 A 5 一

二三頁 日本評論社

世界經濟恐慌史 ヴアルガ著及川譯 A 5

二五〇頁 岩崎書店 一九〇圓

アメリカ林業發展史 島田錦蔵 B 6 二二

〇頁 地球出版社 一五〇圓

科學の歴史 森島恒雄 B 6 一五〇頁 青

也書店 一三〇圓

科學の發展 伊藤至郎 B 6 一九八頁 新

興出版社 一〇〇圓

科學の歴史 伊藤至郎 B 6 一五五頁 新

興出版社七〇圓

世界史論(全) ボスエ著岳野譯 B 6 七

〇六頁 中央出版社 三五〇圓

社會政策 大河内一男 B 6 三四八頁 有

斐閣 二四〇圓

ソ連と極東(上) ダーリン著直井譯 B 6

二七〇頁 法政大學出版局 二〇〇圓

革命の悲劇―パリ・コンミュン史―淡

徳三郎 B 6 二五〇頁 改造社 二〇〇

圓 唯物史觀歐洲經濟史 日下藤吉 A 5 四五

〇頁 育生社 四〇〇圓

西洋美術史概説 坂崎坦 A 5 三五〇圓

風間書房 五五〇圓

西洋美術史講話 外山卯三郎 B 6 二九

五頁 日南書房 二六〇圓

イリアス、ホメーロス著土井譯 B 6

四七八頁 三笠書房 二五〇圓

オデユッセア、ホメーロス著土井譯 B

6 三四四頁 三笠書房 二〇〇圓

ユークリッド 中村幸四郎 B 6 一五〇頁

弘文堂 一二〇圓

カトリシズム・ダーシー著 壽岳譯 B

6 八〇一圓 弘文堂 一四〇圓

カルヴィンの生涯 ベザ著田中他譯 文庫

版 一二〇頁 活水社 五〇圓

パウロの神學 山谷省吾 A 5 三六〇頁

新興出版社 四五〇圓

響アウグスチヌス パビニ著 五十嵐譯

A 6 三六六頁 中央出版社 二五〇圓

ステイルナアの思想と生涯 松尾邦之助

6 二八〇頁 星光書院 一八〇圓

法思想史序説 尾高朝雄 A 5 二二六頁

弘文堂 二五〇圓

ローマ法の原理 原田慶吉 A 5 二八五頁

弘文堂 二五〇圓

【雜誌論文】

史學雜誌 第五十九編第一號 一月

ユードラス・マツカバイオスの亂

井上一

—(レニズム時代におけるユダヤ人の統治者観—
ウエーバーとマルクス 矢田 俊隆

—現代における歴史理論の課題—
同 第五十九編第二號 二月

ワイステューマーにあらわれた後期中世
獨逸農村社會の自由(上) 北村 忠夫

人文研究 第一卷 第三號 一月
アメリカ政治家の著作より見たる民主的

精神の發展(一) 岡本 昌夫
歴史評論 一月號

ピラミッドの發掘 ねす・まさし
ランケの世界史觀 矢田 隆雄

史的唯物論から見た世界史の成立
伊豆 公夫

世界史的考察の課題 増田 四郎
展望 二月號

ナチス擡頭の理解のために 松田 智雄
一橋論叢 第二十三卷第二號 二月

植民政策の終焉 板垣 與一
思想 三〇九 三月

階級と國家權力 鈴木 安藏
歴史學研究 一四四號 三月

ビスマルクと帝國主義(2)

江口 朴郎

オーストリー絶對王政の農業改革

進藤 牧郎

地理學關係〔著書〕

人文地理學入門(上卷) 村松繁樹、川喜田

二郎共著(ミネルヴァ書房、A5二四六

頁 三〇〇圓)

世界經濟の地域構造 除野信道著(有斐閣

A5二二五頁 二五〇圓)

山村の構造 古島敏雄編(日本評論社 A

5三〇四頁 三〇〇圓)

日本の姿 渡邊光著(日本地圖株式會社

B6五二頁 四〇〇圓)

開拓地農業、野田愛三著(朝倉書店 A5

二〇六頁 二八〇圓)

私たちの社會調査—都市や村落の研究法—

矢島仁吉著(保育社 B6一三七頁 七

〇〇圓)

地學概論(上卷) 鍋本政岐、萩原尊禮、

正野重方、永田武、日高孝次共著(朝倉

書店 A5二九一頁三二〇圓)

氣象學の開拓者 岡田武松著(岩波書店

B6三〇八頁 二八〇圓)

水害 安藤峻一著(學生書房 B6一三九

頁一〇〇圓)

大阪府下寒天史料の研究上、下 野村豊著

(大阪府寒天製造組合 A5(上)五四

五頁(下)三一八頁非賣品)

輸出農産物としての除蟲菊(農業總合研究

所 研究叢書第十二號) 細野重雄著(農

林省農業總合研究所 A5 二四四頁

非賣品)

再編成過程の中小工業—大阪のアンプル加

工業—大阪市産業復興調査報告第二輯大

阪商科大学經濟研究所(B6七六頁同所

刊非賣品)

社會科學文獻解説5(一九四九、一—六)

大阪商科大学經濟研究所編(始生社 A

5一一二頁「解説」一五〇頁「文獻目錄」

(定價不明)

日本農業年報第三集 民科農業部會編(月

曜書房、A5二六八頁 三〇〇圓)

日本農業年報第四集 同前編(月曜書房

A5二二三頁二五〇圓)

Die Frankfurter Altstadt (Rhein-Mainische Forschungen, Heft 27)
 Karl Nahrngang (W. Kramer, Fr. am Main, 1949. 88p.)

【雜誌論文】

地理學評論 二二〇

農業地域形成原理としての集落性格論—
 秋田縣子吉川流域の例— 尾留川正平
 飛騨大野郡に於ける燒畑の分布

主要現金收入より見たる内地農家の地理的分布
 日射の氣候學(要旨) 福井英一郎
 濱名湖沿岸の人文地理(第2報)—主として採藻について—(要旨)井出 榮二
 鏡子小川町附近の泥炭層・砂丘の形成時代に就いて(要旨) 井關弘太郎
 グリフィス、テラー「都市地理學」(木内信藏)
 疾病地理學の進歩(R.U. Light)(抄録)
 (堀口友一)

地理學評論(二二〇—二二一)

著書論文目錄

桑名市西部の斷層地形 貞塚 爽平
 富士五湖の湖沼學的研究(5)—山中湖水の理化學的性狀— 西條 八東
 氣候の表現について 關口 武
 隱岐島後の火山地形 田中 豊治
 西南日本、東北日本について(要旨) 望月 勝海

コソラド「氣候學に於ける方法」(紹介)(矢澤大二)
 飢えたる世界の土壤保全(H.H. Bennett)(抄録)
 (西川 治)

地理學評論 二二〇—二二二
 那須扇狀地農業地理(第一報)—水田地域と畑地域の設定— 浜井 勇
 堀江 元
 二三の民族の地域的基礎について 千葉 徳爾
 檢地帳における地積(1)屋敷篇—長野縣伊那谷春富段丘の例— 淺香 幸雄
 岩石扇狀地に關する二三の疑問 吉川 虎雄
 東亞の避暑地(J.E. Spencer & W.L. Thomas)(抄録)
 (能登志雄)

新地理 四ノ一
 合衆國に於ける村落型と孤立農家 辻田右左男

淺間火山北斜面及び北周縁の高冷地特殊栽培景 村木 定雄
 生惠學の對象と方法—植物群落學の立場から— 沼田 眞

最近の地理學の動向(一)—殊に自然地理の問題について—(座談會) 石田龍次郎
 外 十三氏

(註)自然地理側の多田、岡山、矢澤、關口、山本(註)、吉川六氏、人文地理側の石田、別技、中島、柴、佐々木、小栗菊地、岩田(孝)八代が討論した記録であり人間中心的な自然地理學の再建を指している。
 新地理 四ノ二
 戦後に於ける自給製鹽の推移—伊豆半島の場合を中心として— 山鹿 誠次
 包頭銀稅物碑記について—包頭の地理的位置の研究— 梶村 大彬
 カリキュラム作成のための社會調査—基

礎礎草か課題調査かー 菊地 利夫

最近の地理學の動向 (二)ー殊に自然地理の問題についてー 石田 他十三名

魏志倭人傳の里程記事に就いて 宮井 茲雄

東北地理 二ノ二、三

春播小麦と秋播小麦の栽培限界 富田 芳郎

社會地理 二十號 (一月) (北海道特集)

北海道の資源とその開發 安藝 岐一

北海道開拓史と地理 高倉新一郎

北海道の農業地帯について渡部以智四郎

石狩平野の地理的特性 渡邊 操

北海道の初期の地圖 秋岡武次郎

北海道の國立公園 館脇 操

臨門海峡の潮流とその豫報 中野 猿人

農業水利權の分割並に歸屬に就いてー日本灌漑水利慣行研究の一齣ー喜多村俊夫

北四國の地盤沈下ー南海地震に伴う地盤運動とその影響ー 小笠原義勝

史學雜誌 五九ノ二

地理學における村落及び都市最近の研究 木内 信藏

安平盆地の農業景観 森 壽美翁

社會地理 二一號 (二月)

利根川デルタの農村生態 山口恵一郎

種子島の集落 三友國五郎

伊豫海及燧灘に於ける漁村の季節的住家 村上節太郎

手賀沼畔の手賀村 新井 浩

社會地理 二二號 (三月)

タイ國の華僑 尾形 繁之

華南點描 大村 肇

中畿諸都市の所謂水賣について 合田 榮作

リスボン國際地理學會の出版物 (一) 今村 學郎

オランダの農業 新井 浩

鳥取海岸砂丘の研究 山名 巖

郷土研究 創刊號 高田 保馬

郷土社會の研究 米倉 二郎

ジュネイス颶風による佐賀縣の水害 森 一郎

T・V・A

民間傳承 一三ノ一一

十津川の垣内 直江 廣治

地學雜誌 五八ノ六・七

美濃春日村見聞記 千葉 徳爾

鐵道電化の意義 沼邊 武捷

洪水波の傳播速度 多田 文男

越山火山 市村 毅

津輕海峡隧道の計畫及附近地質調査中間報告 (一) 桑原彌壽雄

資源科學研究所彙報 十四號

多摩丘陵の地質 伊崎 晃

氣象集誌 第二輯 二七ノ一一

太陽黑點の傾向から見た異常凶年の懸念 徳永 重元

海と空 二七ノ四 他 二名

海と空 二七ノ五 藤原 咲平

新潟附近に於ける梅雨に就て 岡 千秋

海と空 二七ノ五 神戶地方の傳染病と氣候 赤井 清康

The Geographical Review Vol. 39 (1949) No.1

A Vegetation-Types Map of Tanga-

- nyika Territory C. Gillman
 The Yellow River Rohanressed O. J. Todd.
 Land Utilization and Settlement Possibilities in Sinkiang Chang Chih-yi
 A Program for Japanese Fisheries Ada Espenshade
 Renewable Resources : A World Dilemma: Recent Publications on Conservation W.B. Fairchild
 Boundaries and Internal Problems of Idaho B. E. Thomas
 The Changing Face of Rural Mexico H. S. Sterling
 The Geographical Review. No. 2. Clothing for Global Man. D. H. K. Lee and H. Lemons.
 How Hot is Death Valley? Arnold Court
 Desert Contrasts Illustrated by the Coachella Robert. Glendinning
- California Manufacturing James J. Parsons
 The Railroad Pattern of the United States Edward L. Ullman
 The Social Geography of Dublin Joseph P. Haughton
 Malaria, Irrigation, and Soil Erosion in Central Syria Norman N. Lewis
 Frequency and Distribution of Dew in Palestine D. Ashbel
 Lessons from the Experience of the Map Information Section, OSS Leonard S. Wilson
 Acimatization in New Guinea Robert G. Bowman
 The Geographical Review Vol. 39 No. 3
 Geographical Interpretation Isaiah Bowman
 The Belgian Congo: Impressions of a Changing Region Robert L. Pendleton
- Aotearoa Maori: New Zealand Abou ut 1780 Kenneth B. Cumberland
 "High" and "Low" Islands in the Union of South Africa Keith Buchanan
 and N. Hurwitz
 Observations in Kamishak, Alaska Will F. Thompson, Jr.
 Recent Geographical Reserch in Arragon Alice Foster and Robert Aitken
 The Sixteenth International Geographical Congress, Lisbon, 1947 John K. Wright
 The Geographical Review Vol. 39 No. 4.
 Oter-Trawl Fisheries of South Africa Peter Scott
 Zambezi-Okovango Development Project's John H. Wellington
 Irrigation and Land Use in Zemiya Bahari, Upper Egypt Douglas Dorary

The Shu Tao or Road to Szechwan

Herold J. Wiens

Frontiers between East and West in Europe

Werner J. Cahmann

Toward an Appraisal of World Resources: New Views of Conservation Problems

Gilbert F. White

Empress Borsari: Italian Settlement in Tierra del Fuego

Charles B. Hitchcock

The Strange Farmers of the

Gambia H. Reginald Jarrett

Geographic Regions in Korea

Shannon Mcune

The Geographical Review

Vol. 40, No. 1

Medical Geography: Its Methods and Objectives Jacques M. May.

Agriculture in Ceylon

B. H. Farmer

Recent Industrial Development in the Gulf South James J. Parsons

Evidence for Pleistocene Man in

Southern California

George F. Carter

The Report Skerry Guard: Emerging Islands in the Northern Baltic

Helmer Smeds

考古學關係【著書】

法隆寺金堂釋迦三尊像 法隆寺資料彫刻篇

第一(A4・105頁、圖版七六、岩波書店(二五〇〇圓))

山村の樺造 古島敏雄著(A5・三〇四頁)

日本評論社(三〇〇圓)

原始時代の生活 自然史學會編(B6・三

三〇頁、群芳園(二三〇圓)

日本考古學入門 原田淑人編(A5・二六

七頁、吉川弘文館(二五〇圓)

琵琶湖底先史土器序説 小江慶雄著(A5・

一〇三頁、學而堂(二五〇圓)

【雜誌論文】

史跡と美術二〇〇 (二月)

東大寺三月堂本尊寶冠菩薩の勾玉について

梅原 末治

佛敎藝術 六(二月)

わが古墳時代に於ける佛敎藝術の影響に關する一問題 熊谷 宜夫
印度佛美術研究の成果(完) 高田 修

ハーシヨウ著・橋本洋一郎譯

政治思想の歴史的展開

“THE DEVELOPMENT OF POLITICAL IDEAS”

ロンドン大學で政治史家として特に令名の高
かつたハーシヨウ教授の名著の完譯の一つで
簡潔明快にして含蓄に富んだ史筆によつて政治
思想の基本的な思想が薫り高く體系的重點的に
而も鮮かに展開されている。

大阪市東區南新町一ノ六

教育タイムス社

振替大阪71920 電(東)1362

史學研究會

例會 二月九日 午後一時—五時

於京都學藝大學

原始文化研究の道

種口隆康

琵琶湖々底史前遺跡の研究

小江慶雄

歴史地理的に見た近畿地方

藤岡謙二郎

講演終了後、座談會に移り、歴史研究の成果と歴史教育の實際を如何に結びつけるかにつき種々懇談した。尙小江氏の講演要旨は次の通りである。

ビワ湖底史前遺跡(概要)

小江 慶雄

湖北東淺井郡朝日村地先の湖底遺跡はその後新資料を出し、現在縄文彌生兩式土器二五個祝部土器數個に及ぶが、この遺跡の成因は明らかでない。この湖底の調査の結果湖底には赤褐色の凝固した扁平土質が湖盤を掩う泥土上に散在し、近時發見土器に

は粘土の附着物の存する事が明らかになつた。是等土質は砂岩礫乃至角岩質の砂粒を含み水流の堆積物なるところから、その過去のあり場所として背後の谷を想定する。従つて湖底遺跡は背後の古生層の角岩地域にあつた遺物が歴史年代のある時期に谿流乃至崩土等の部分的な自然作用により湖中に没したもので、陥落の如き大規模な地動に基き形成されたものではない。

京大史學科卒業生並びに

卒業論文題目

國史

(昭和二十五年三月)

- 奈良時代の神佛關係 井上 秀雄
- 北陸型村落と一向一揆 上島 有
- 日本上代に於ける國家的系譜の成立に就いて—特に古事記の氏族系譜を中心として— 上田 昭二
- 中世に於ける新佛教の成立 大垣 誠三
- 聖德太子觀 小河 清
- 近世初期思潮の一考察 金村 紫

—天道の思想について—

藤原攝關家の分裂について 淨謙 俊文

幕末畿内農村研究の覺悟 —河内辨津棉

作農村を中心として— 蓬郷 峰保

太平洋史序説 —特に幕末に於ける日米

關係についての試論— 長澤 哲史

近世初期に於ける都民の生活 —京都冷

泉町記録にあらわれたる生活相を通して

— 秦 文子

近世初期に於ける天主教の意義 原田 長武

不靈言と宣長の初期の思想 深江 浩

森恪の政治生活とその史的背景 —護憲

よりフアシズムへ— 藤原 剛

海國兵談 第一卷 —「奇人」の思想表

現について— 松田 定夫

福田英子の社會的自覺と實踐 —明治に

於ける婦人運動の断面— 松原眞理子

氏族社會の構造 南 一郎

風土記を通じて見たる日本文化の類型

村川 行弘

大名領の形成過程 — 日本近世封建制度

成立史序説 — 山形 友郎

幕藩體制成立期に於ける政治論の性格

山本長五郎

織田信長とカトリック 耶蘇會宗門一切支

加藤 司朗

東洋史

元代の站戸について

井ノ崎隆興

洪秀金と孫文の農業政策

植野 珪

中國中世近世都市に於ける警察

片山 照恵

行政に就いての一考察

玉田 英夫

廣東十三行

外海 卓雄

清蒙關係についての一考察

西山 員臣

魏晉時代の豪族

濱田 忠雄

明代における江南の官田について

久雄

— その崩壊過程の一考察 — 藤村

閻野 潛龍

漢末豪族の動向に就いて

三宅 義二

五代の流民問題

村上 貢

清朝前期の胥吏に就いて 横井 三郎

— 專制支配の下部機構としての —

清朝中末期に於ける旗地の崩壊について

和田 秀海

漢代の家族

北宮 條平

唐代郷團よりみたる團練使及團練兵の研究

龜原 幸

西洋史

フランシスカン運動の歴史的性格序説

政本 博

十七世紀から十八世紀中期までのドイツの音楽文化

馬淵卯三郎

近代歐洲自由主義の起源に關する一考察

「精神的雰囲気」に就いて 林 香治

— 主として (Capitalist spirit) なる

英國に於ける宗教改革の初期段階

— (ヘンリー八世の改革について

下中野深志

十八世紀に於ける英國農業革命の意義

里内 繁雄

ギリシア植民地の性格に關する一考察

啓田 四郎

マルクス主義と一八七一年のパリー・コ

ンミュン 天野 克巳

アリストパネスの喜劇「リュシストラテ

」について 齋藤 統

(附)喜劇「シュニストラテ」について

— アテナイの女性の地位 — 禿氏好文

違憲立法審査制の理論の生成

— 米國憲法思想史研究序説 — 高倉 正治

アメリカ合衆國に於ける移民法に就いて

New Deal の意義 鳥羽 暢

十七世紀末期に於るフランスの毛織物工

業 西田 温彦

英國に於る大不況期 (1873—1893) と自

由放任主義の放棄 山本文二郎

十八世紀末に於る英國經濟社會の變革

— 工場主層の系譜を中心に — 米田 清治

選科

十六世紀南逸における株式會社發生につ

いての一考察

— 特に嶺山業を中心として — 啓田 四郎

地理

徳川封建社會に於ける綿業の地理學的研
究 池浦 正春
米國に於ける水力發電資源の地理的研究
平川 高義

考古學

畿内を中心とする後期古墳の研究
川端 眞治
戰國時代漢代瓦塚に現れる樹木紋様につ
いて 林 巳奈夫

龍谷大學史學科卒業者並
びに論文題目

(昭和二十四年度)

佛教史學科

初期鎮西派の研究 佐藤 昭賢
來迎藝術の發展過程 秋元 貫成
室町佛教に於ける鎮西派の地位
兼谷 豊龍
日本初期臨濟禪の性格 平住 勉
日本上代末佛教の一考察 藤村 大美

國史學科

初期眞宗教團の一考察 水阿 時成
北陸に於ける初期本願寺教團發展
の研究 弓波 眞備
近世佛教の一考察 安達 研
百姓一揆の一考察 武 淳麻呂
淨土宗の開立と南都佛教 松田 修三
中世に於ける貨幣流通の一考察
岩城隆千代

福澤諭吉の思想と業跡 梅高 正行
桃山時代に於ける障壁畫について
大橋 乗保
我國古代家族の研究 奥田 信了
大悲菩薩覺盛傳研究 川井 戒本
―主として自誓授戒まで―

土一揆について 神田 眞悅
中世期に於ける農村問題の一考察 岸田 淨信
中世末期における文化の地方傳播
白旗 信孝
初期平安時代の精神傾向 戸田 台淳
―特に佛教との関連に於いて―

日本紀年論 中川 俊一
歸化人についての一考察 早川 隆英
日蓮の宗教運動についての一考察 藤吉 義壽

中世農民生活論考 古澤 教眞
日本古代社會 古澤 教眞
近江商人の一考察 若井 寛
江戸時代中期における人形史考 和田 豊弘

東洋史學科

漢帝國の成立過程 大庭 脩現

立命館大學文學部地理學科
卒業者並びに論文題目

現代社會生活に於ける血縁關係及地縁關
係の地理學的研究 家村 政男
我が國産業革命期の一斷面―主として阪
神都市の人口動遷について―今井 元一
大都市郊外の蔬菜栽培と都市の自給圏の
構造 乾 幸次
近江瀬漕農業の一考察―特に湖南地方を
中心として― 大角 賢二

京大國史關係

讀史會一月例会 一月廿日(月)午後一時半より京大史學科演習室にて一月例会を開催、柴田助教以下十名出席。次の研究發表が行われた。

孟蘭盆會の本邦移修 竹田 聰洲氏

加賀藩の改作法 若林喜三郎氏

讀史會二月例会 二月十一日(土)午後一時より史學演習室にて小葉田教授の歡迎會を卒業生の豫備會を兼ねて開催、出席者約五十名。記念撮影の後、先ず柴田助教及び先輩を代表して山根大阪市大教授の歡迎の辭あり、ついで小葉田教授立つて着任の挨拶と卒業生への喜びの言葉を述べられ、卒業生も又各々卒業の感想を語り合い、參會者一同なごやかに手製のおはぎに舌づつみを打ちつつ盛會裡に五時前散會した。

民俗學會例会 二月廿五日(土)午後一時より京大史學科教室にて先に探訪された各地の田樂などの撮影フィルム映寫會を開催した。主なるもの次の如し。三河

池野 茂

都市圏に關する地理學的研究 杉野秀一

「郊村」の類型的把握について—大阪を中心とせる人文地理學的研究—島田 曉

瀬戸内海沿岸の製塩地帯の地理學的研究 富岡 儀八

近接せる大都市間の交通(京阪間を中心として) 西田 武

中央高地中央盆地に於ける交通系—特に飛騨高山地方に於ける一二の歴史地理的考察 佐谷 操

西美濃平野の聚落と土地利用 鈴木昌信

南四國落の地理的一考察 田村 勇雄

四國島の人口現象に關する地理學的一研究 檀上 安男

日本に於ける密柑生産地帯の經濟地理的考察 中野 榮治

瀬戸内海灣の歴史地理學的一研究—鞆津の場合 二井 俊康

灘五郷を中心とした酒造地域の地理的研究 平野 義博

山城盆地の溪口聚落の地理的一考察 吉田 敏行

近江盆地に於ける農業の一考察—湖東平野の溜池灌漑について— 大槻 晋

商業的農業に關する地理學的一研究—主として紀州みかんの場合— 梶谷 輝雄

メトロポリタン・ディストリクトにおける都市群の研究—ロスマンゼルスを中心として— 小林 博

都市に於ける農業經營の地理的考察 竹松 定雄

枚方市—歴史地理的考察— 藤岡 幸夫

統計を中心として見たる大阪市郊村の性格—大都市蔬菜集荷— 松本 芳男

瀬戸内大島の地誌的研究 松本 三夫

大阪周邊に於ける陸上交通路の變遷 山崎 俊郎

伊賀盆地に於ける移轉集落の一二の例 吉村 一彦

茶葉の經濟地理的考察—特に北勢地域に中心にして— 吉田 一夫

美濃平野の歴史地理的性格 小川 高二

先史地理學の諸問題—特に瀨美半島の先史地形について— 青木 良信

日本の洪積台地—其の歴史地理的研究—

鳳來寺田樂・三河田峯觀音堂田樂・北寺觀音堂御田・黒部深田部神社祭禮・神戸長田神社追儀式等。

京大西洋史關係

西洋史卒業生豫餞會

三月九日午後三時より三高會館にて行つた。原、井上兩教授以下、卒業生、在學生及び研究室關係者三五名が出席、先生方の祝辭、挨拶により始められ、卒業生より學生生活の回顧、卒業後の抱負等がのべられ種々談話の後、五時すぎ解散した。尙卒業生の就職は大平定まり、主として教育關係である。

京大地理學關係

地理學談話會例會

一月例會（一月二十八日地理學實習室）

出席者 二十五名

武藏野台地の性格 浮田 典良
鹿屋市の都市性 勝目 忍
岩岡村の溜池 末尾 至行

二月例會（今月に限り休會）

三月例會（三月十八日地理學實習室）

出席者 二十六名

卒論發表

平川 高義

研究發表の後懇談にうつり、和やかな中にも今後の例會の運営方法等について眞剣な討議が行われた。

小野鏡二先生追悼會

先に報告した如く小野鏡二先生は昨年十二月八日死去されたが、御遺骨の京都に立ち寄られたのを機會に十二月二十日北白川の小野三正氏宅に於て同先生の追悼會を開いた。藤田元春先輩をはじめ在洛の先輩の來會者も多く、未亡人、嗣子一郎君をかこみ、小野先生をしのんでしめやかな中にも和やかな一時をすごした。なお目下廣島大學、和歌山大學と相呼應して同先生御遺族慰問金を募集している。

中野竹四郎氏の死去

元立教大學教授中野竹四郎氏は宿痾の爲一月二日死去された。

人文地理學會

人文地理學會は昭和二十三年三月、從來

の西日本地理學會を母胎とし、廣く全國同學の士に呼びかけて誕生した學會である。

現在會員數約五百。全國の殆ど各府縣に一ヶ所以上の支部を持ち、機關誌「人文地理」を出している。會費は年四百圓（但し誌代）。入會は支部經由を原則とするが、直接本部に申し込まれても差支えない。入會資格には制限なく、同好者の入會を歓迎している。なお年一回學術大會を開いている。「人文地理」は第二卷第一號まで既刊、第二號は四月末刊行の豫定である。發行所は柳原書店、學會事務所は京都大學文學部地理學教室に置いてある。（振替京都六六一番）

京大考古學關係

卒業生豫餞會

新卒業生林、川端兩君と一年間内地留學で教室に研鑽をつまれた鳥取縣の佐々木謙氏を送る豫餞會を三月四日午後一時より花谷會館で開いた。梅原、水野兩教授、長廣助教授、村田講師以下教室關係者が多數集り久しぶりに盛會であつたが、先ず梅原教授の祝辭、新卒業生の挨拶があつて後、角

田先輩の新卒業生に送る講演あり、日本考古學の確立に大きな影響を興えたスウェーデンの碩學オスカル・モンテリウス博士の生涯を紹介されて新卒業生の前途を祝福されたのは誠に意義深いものがあつた。

梅原教授新出銅鐸遺蹟調査

二月廿四日遠江國三ヶ日町釣に於て新に發見された銅鐸の出土状態を調査の爲、梅原教授は三月十一日より三日間現地調査をされた。該地は天保九年二個の銅鐸出土地點に近く、該地の北斜面にはゞ水平位に大形装束文式のものゝ埋葬せられていたのて、その出土の儘の状態が學術的調査を経た點で、徳島縣入田の例に次いで確實な新資料を提供したものとへよう。

立命館大學地理學同致會

九月二十三日 昭和二十四年度研究發表大會(要旨は地理學研究小報第二集に掲載)
十二月十日 ワイズのエリトリア紀行樋口節夫、ウィットレッシィ・エンゲル
プレヒト―農業地域論の諸問題 山口平

四郎

一月二十一日 卒業論文發表會
二月十九日 豫餞會

人文科學研究所關係

常設人文科學講座 第二期
(昭和廿五年於人文科學研究所)
文字と記號

一月十八日 記號論原理(一) 鶴見俊輔
一月廿五日 同 (二) 同
二月一日 漢字整理の方法 平阿 武夫

二月八日 世論調査の方法 森口 兼二
二月十五日 中國のローマ字運動 藪内 清

唐代文化

三月一日 隋唐の革命と宗教 塚本 善隆
三月八日 唐代美術主潮(一) 長廣敏雄
三月十五日 同 (二) 同
三月廿二日 正倉院の漢藥 森 鹿三
三月廿九日 唐代文學 神田喜一郎

東方學術協會關係

月例會 於京大文科學研究所
二月七日 石油の歴史 榛葉 嶺
三月十四日 對州神道 三品 彰英

自然史學會關係

第廿三回例會
一月廿八日 「原始時代の生活」合評會
第廿四回例會
二月十八日 發長類の系譜 徳田 御稔

第廿五回例會

三月十八日 リオー群島の植物 永井進

次號預告(三三卷四號)

「魏晉時代に於ける貴族政法の成立」
川勝 義雄
「中世の地圖」……………織田 武雄
「古代末期に於ける農民層の動向」
……………宮川 滿
「古墳時代に於ける文化の傳播」(下)
……………小林 行雄
學界展望・新刊紹介・著述論文
目錄・學界通信